

下水道使用料 2 割値上げストップ、水道料金値下げ、地下水優先の水道を求める請願書

要旨
1. 10月からの下水道使用料の19.8%値上げは行わないでください。
2. 水道料金をさらに引き下げてください。そのためにも、府営水道の過大な「建設負担水量」の削減を求め、地下水優先の水道事業をめざしてください。
理由
長岡京市は10月から、下水道使用料を19.8%値上げしようとしています。コロナ禍で1年延期していましたが、「再延期はしない」と市長が表明しました。年間約2.6億円の負担増になります。
値上げの理由は「受益者負担」の徹底です。これまで市独自に一般会計(税)から補助を行っていましたが、今後ほぼゼロにするというものです。
しかしそうすれば、低所得者ほど負担が厳しくなるとともに、将来増加する管路更新費用もすべて市民にのしかかり、大幅値上げともなりかねません。
長岡京市もかつては、下水道事業の経費の多くを税でまかない、維持管理費だけを市民の負担としていました。憲法25条は「国は・・・公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない」と定めており、「使う人が負担して当然」とすれば、公の役割がどこかへ行ってしまいます。
水道料金については、昨年から3回目の値下げが実現していますが、依然として安いとは言えません。

水道料金の高い原因は、長岡京市が受水する府営水道の2万6千トン／日の過大な「建設負担水量」です。市民が実際に使うのは約1万3千トン／日であり、「使わない水に支払う金額」は年間約2.9億円になります。おいしい地下水を中心にした水道にするためにも、「建設負担水量」を削減することが必要です。

下水道と同様、一般会計（税）からの補助をなくして市民負担にしたことも問題です。また、水道のあり方に市民の声が届かなくなる「広域化」や「民営化」を懸念しています。

以上のことから、上記の2点について求めます。